



亀井隆義
(顧問・市會議長)

(顧問・市會議長)

香川都市計画を

住民の手で

六〇年代を省みて
あと一九年たつと二一世紀を迎えるが激変をたどった香川の過去を一瞥してみることにする。
一九六六年（四一年）一月私が会長のとき「香川都市計画の構想」なるものを起草し各戸に配布した。当時の世帯数は八六六戸、二九九三人であつたが、この頃から社会増傾向が顕著になつたので、町づくりをどのように

あけましておめでとうござい
ます。香川自治会のみなさまの
一層のご発展と健康であられん
ことをお祈り申しあげます。

齊藤兵治
(自治会長)

日頃、会員のみなさまの深い理解と暖かいご協力を厚く感謝し、お礼を申しあげます。

八〇年代を迎え、政治に経済にと誠に厳しいものが感ぜられる最近の情勢下ではありますが、会員共に手を取り合い、助け合つて、お互の知恵を出し合い、意志を尊重しながら、住みよいまちづくりに努力したいと存じます。

香川駅も国鉄・市当局・地域代表・地域住民・相模線連絡協議会等の方々のご尽力により、

住民の知恵でまちづくり

特集 80年代の香川

香川二子

第 54 号

編集発行
香川自治会
広報委員会
中央タイプ印刷

香川の

人口 8,093人
世帯数 2,229
会員数 2,100
発行部数 2,200部

みんなの力で 香川を つくろう

駅舎の新改築、ホーム屋根の新設・駅前道路の危険除去工事及び自転車置場の新設など関係者のご厚意により着々進められおり、本年中には完成し、地域住民の便利なものとなることでしょう。ご尽力された方々に厚くお礼を申し上げます。

香川自治会の種々計画事業はみんなの健全なる意志決定であり、着々進んでおり、結集の力が強ければ強いほど、成果は大きく、偉大なる事業として表われるものです。二千三百戸の会員数は、市内でも三番目です。

大世帯の香川は、意志統一もよく、各年度の事業計画も明確であると、市長は高く評価しておられます。市の信頼度に対し、裏切らないよう、近隣自治会の先導者となるよう、八〇年代でも立派に運営して行きたいものであります。それには会員のみなさまの

相模線連絡協議会は香川・松風台・鶴が台2団地・下寺尾・円蔵に加えて西久保・大曲と九自治会となり、茅ヶ崎・寒川高校增设協議会等の団体と共に、増々組織も大きくなりました。「相模線をよくする会」を作り、國労から話しかけられて早三年目となり、この間、種々の施策をねり、国鉄・茅ヶ崎市・寒川町にと陳情及び話し合を行ない駅舎の改築、三ツドアへの切替え、危険箇所の安全整備等々と改善をはかつて参りました。皆様のご協力ご意見がありましたが、たら自治会へ申し出してください。以上年頭のこととばといたしましたく、今年もよろしくお願ひ申しあげます。

努力が必要となる。その為にはお互に助け合い、それぞれの役割分担についての努力をすべきではなかろうか。学校や会社や文化サークル活動などでさまざまな交流は現にある。それを仲間との交流ができる集団の仲間との感想文にあるような接觸交流の日當活動が望まれよう。これからは交通安全対策、環境の整備、緑化の推進、物価問題や公害の排除など住民共通の課題をめぐる問題を解決していくことは自明だから、そうすれば個性のある町に育っていくと考える。

公共的なテーマ

市は昨年53と65年の十三年間の総合計画を策定した。これは行政の指標として各般の将来計

画の大綱を定めたもので、地
自治法に規定されている。私
香川の場合それとは次元は異
けれども、衆知を集めて香川
将来像を構想にまとめてみて
どうかと思う。

当面住民サイドでなすべき
とは何かを列挙してみる。

(1) 環境の整備

(1) 香川土地区画整理事業の完
(2) 香川南下水路の完成
(3) 東海岸寒川線の延伸
(4) 都市計画法の線引検討
(5) 小出川の改修促進

(2) 教育文化

(1) 香川方面中学の早期実現
(2) 香川第二小学校の実現
(3) 香川小ブルの実現
(4) 埋蔵文化財の確認と保存
(5) 交通体系の近代化
(6) 相鉄新線の計画促進
(7) 相模線の近代化と合理化



熊沢 晶
(顧問: 市議)

心の開発で 80年代の地域づくりを

1

心の開発で

80年代の地域づくりを

今年は「黒土星」（じこくせい）で、いちばん地味な年です。また、昭和五十五年、一九八〇年、閏（うるう）年つまりナリントピックの年でもあり、節目の年です。

土というのは大地です。大地は万物をその上にのせ、じつと支えています。草木の根をしつかり抱いて、落ちた種子を守りはぐくむ母の力です。人間は大地を耕やすことにとり、太陽の熱と光と、水と空気との自然の恵みで、何万年も生き続けてきました。

戦後三十五年、敗戦直後の混乱期をよく堪え、のりこえて、しかも経済復興は、高度成長が世界に誇るまでとなり、反面、

偏見を捨てて、ウソ偽りのない正直な真正銘の自分の意見を時と場合に応じてシッカリと表することです。かつての田や畠が宅地となってしまったことは無限です。今までやつてきたことや考え方を、問い直し、見直し、八〇年代にふさわしい確め合いをしてこの年を「地域の自治」の川の居住環境整備の本当の第年目、つまり節目にしたいもの

